

事業の背景・目的

平成30年度のアユモドキ生息状況調査により、現在の繁殖地や生息地における成魚の隠れ家の不足や水路ネットワークの分断等の課題が明らかになり、その課題解決のため、令和元年度に実施した、石礫の掘り起こしによる隠れ家の創出や、草刈り等による水路の連続性の確保などに一定の効果が見られている。

これらの知見を踏まえ、本年度は石礫の掘り起こしをより効果の見込まれるラバーダムの立ち上げ前に実施することにより、繁殖に参加するアユモドキの成魚を増やす効果を狙うとともに、引き続き、草刈り等による水路の連続性の確保を継続して行うことで、アユモドキの生息環境及び繁殖環境のさらなる改善を目指す。

事業の内容

事業① アユモドキ生息環境の改善

1. 繁殖地において埋まっている石積みをアユモドキが利用できるように整備した。
2. 水路ネットワークの連続性の確保を行った。
3. ラバーダムの操作に伴い水涸れが生じる際には取り残されたアユモドキの救出活動を行った。
4. 出水時等の非常時には緊急パトロールを行った。



事業② 効果測定

事業の効果を検証するため、個体数調査、繁殖状況調査及び仔稚魚調査を実施した。



得られた成果

- ・ 個体数調査を秋に実施したところ、当歳魚は 1087.4 ± 232.0 尾、一歳以上魚は 381 ± 83.3 尾と推定され、平成27年から令元年まで400～600個体で推移していたところ、大幅な増加が見られた。
- ・ 個体数の増加の要因としては、ラバーダムの立上がり前に石礫の掘り起こすことで、繁殖地における待避環境が改善され、繁殖に参加するアユモドキの成魚が増加したためでないかと考えられる。
- ・ これまでの事業の成果によって、繁殖地への遡上環境の改善や繁殖地の水路ネットワークの連続性の確保等の生息環境改善が重要であることが示唆された。
- ・ 引き続き、生息地や繁殖環境の改善事業を継続的に実施することで、同地域のアユモドキの個体群の更なる回復を目指していきたい。

当歳魚

